

平成20年度 第3回外部評価委員会報告書

鳥取県立倉吉東高等学校
学校長 名 越 和 範

評 価 日	平成21年 3月18日（水）	
日程と内容（質問・評価・提言等）		学校の所見・改善策等
1 今年度の学校自己評価について		
(1) 重点目標の達成状況と評価について		
あらかじめ送付しておいた自己評価表をもとに教頭が説明。 学校の評価に対して、委員から「規律ある生活」と「中高連携」の2項目について、「B」を「A」にしてもよいのではないかという意見が出た。最終的には、「規律ある生活」を「A」へ、「中高連携の強化」については提案どおり「B」とした。「A」と評価することによって、さらに高い目標へ集団としてのモチベーションをあげることになるという意見であった。		・遅刻0日数の向上をはじめとし、結果自体は確かに出ているが、目指す姿の達成度を考えた時にいまだ満足できるものではないが、「A」評価していただけことはありがたい。中高連携については、HPなどの動きが遅かったこと、中学校の先生方にまだ理解されていない部分があることを踏まえて、「B」で良いと考えている。
また、現在進行中のため、評価が難しい項目、「苅谷研究室との連携強化」「国公立大学合格者数の維持・発展」「難関大学合格者数の維持・発展」については、結果が出た時点で評価を付すという承認を得た。		
(2) 公表について		
この外部評価委員会の結果を3月23日（月）の職員会議で報告し、その上で、HP上で公開する。		
2 外部評価委員会での意見交換等について		
○「規律ある生活」について		
・『自主的な活動の質の高さ』とは具体的に何を指すのか。		生徒の委員会活動が活発であり、生徒委員会の中から具体的な改善案や提言ができること。
・謹慎処分など生活指導上問題のある生徒数などどうか。		例年とくらべて多いわけではないが、特に1年生の生活指導が大変だったという印象を持つ教員が何人かあった。職員の生徒（生活）指導に対する努力は評価しており、逆に学校の指導が厳しいという生徒も存在する。
・記述されている「礼儀正さ」はその場限りの作られたものであるという心配はないか。自然体が望ましいと思う。とは言え、外部の方からそのような好意的な評価を受けることは大変望ましいことである。		学校訪問など来客が多いので、生徒が来客慣れをしていることは確かであるが、特に特定の人や特定の日に礼儀正しくす

・生徒のあるべき姿（目指す姿）は自己評価表に記述されているが、教職員のあるべき姿もあるはずで、次年度の自己評価表には記述した方がよいと考える。	そのような指導したことは無い。生徒自身が考えて行動できるのだと思う。
・記述や数値的にはA評価で良い。これで十分であると満足して、取組みがおろそかになるなら別だが、さらに高い目標へ向かうための動機付けとしての「A」としたい。 ・継続の必要な項目であり、これからこの状況が継続可能だと考えられるなら「A」でよい。	意見を参考にさせていただいた上で、「A」評価とする。
○（チューター制度）について ・改善点があれば教えてほしい。	アンケートに出てきたものを検討し、携帯電話を使用しないことや同じ中学校出身生を考慮するとか、勉強についてのアドバイスなどを重視するなどという点をチューター事前指導で随時行っている。
・反対意見もあるようだが、それらについてどう考えているか。	学校の方針としての重点項目であり、変更するつもりはない。教員の仕事を生徒（チューター）に請け負わせているつもりなどない。生徒自身は希望者であり、やりがい（自己効用感）を求めている。チューターオリエンテーション（事前指導）に配慮しながら実施しており、チューター自身を成長させる取り組みでもある。
・保護者に理解されるような周知方法をもう少し工夫した方が良いのではないか。	・全員に同程度に理解してもらうことは、難しいと感じているが、努力したい。（育友会総会・学年保護者会・入学説明会等の機会利用）

○（朝読書について） ・生徒が「堅い」読み物を避ける傾向があるならば、「社説」などを読ませる工夫をしてみたらどうか。 ・一人当たりの冊数を増やすことが良いとは限らない。本の内容に応じて、冊数の変動はありうる。高校生として適正なレベルの「書物」に向かってほしいと思う。そういう意味では、年間一人 8.6 冊という数字は悪くはない。小論文が抵抗なく書けることが大切だと思うので、妥協はしないでほしいが、取組みに工夫を求めたい。 ○（教科指導力の向上について） ・授業評価アンケートの項目について説明をしてほしい。 ・「評価の高い」教員による研修が行われたということだが、どういう意味か。 ○（第三者評価について） ・「B」という評価のもつ意味は何か。 ○（中高連携の強化について） ・「A」評価でもよいのではないか。	読書小論文委員会で来年度さらに検討を加えてより良い活動にしたい。 研修部主任が説明実施。 （生徒が教員の授業を評価する。6月、11月の年間2回。授業に関する項目だけでなく、生徒自身の振り返りの項目も設けている。授業改善の手立てを探る。） 生徒評価で、AとBの割合が高かった教員に自身の授業に対する工夫を話してもらった。 5段階評価のうちの2番目であり、「概ね満足できる」という評価である。「A」となれば、全国的に誇れるということらしい。 今年度は試行であり、各学校の目標を達成しようとして行う教育活動がさらに質の高いものになるような第三者評価を望んでいたが、多くの学校に共通するような評価規準を作る方向で進んでいるように思う。 H P の充実度も第2回外部評価委員会以降による活発化であり、少し動きが鈍かったよう
---	---

・「出前授業」とは何か。 ○（進路目標を見据えた生き方指導について） ・生徒と保護者合同の研修会などを企画してみてもどうか。その際には参加者数の確保が問題となると思う。 ○（国公立大学合格者数・中堅難関大学合格者数の維持発展について） ・「難関」大学の集計には「医学部」を入れるべきではないか。 ・大学の「出前講義」などの機会は保護者にももっとPRしてよいと思う。 ○（専攻科について） ・「専攻科でできることを現役にもっと広げる」とはどういう意味か。 ○（全体について） ・専攻科修了生から本当の勉強の楽しさを知ったという声をよく耳にするが、こういう声が生徒自身から出るほどのすばらしい取組みだと高く評価したい。 ・「百周年記念誌」をいただいたが、多大な労力に心から敬意を表する。	に思っているので、自戒の意味を込めて「B」としたい。 中部教育局を仲立ちとして、中学校側の要請に答え、合唱指導や英語授業を実際に中学校に出かけて行うものである。 生徒向けの研修会として、3月のこの時期に検討していたが、講師の都合もあり実現しなかった。5月の育友会総会などを機会として考えてみたい。 そのように考えている。 岡山大学、鳥取大学、自治医科大学のものには保護者の参加もあった。もっとPRに努めたい。 「学び祭」のような趣旨のものを3年生にも広げるという意味と、専攻科には現役生よりも幅広い学力層が入学してくるにもかかわらず、一定の伸びが見られるので、その原因や工夫を探り、現役生にも応用できるのではないかと考えている。
--	---